

建学の精神: 未来に輝く女性の育成

建学の精神に基づく教育理念と目的

**理念** 本学は教育基本法および学校教育法の定めるところに従い、山陽女学園の伝統の精神に基づいて大学教育を行い、教養と専門性を兼ね備え、地域に貢献する女性の育成を教育理念としています。

このことを具現化するために、以下の4点を全学的教育目的とする

- 目的**
- (1) 教養教育及び健康・医療を核とした専門基礎教育の徹底
  - (2) 実践に即した豊富な実習を中心とした教育
  - (3) 資格を活かして、地域に貢献できる人材の養成
  - (4) 地域における生涯学習拠点化と地域連携の推進

実践目標: 愛優輝

建学の精神に基づく長期目標

山陽女子短期大学が質の高い教育を提供し、資格を活かして地域に貢献できる人材を養成し続け、地域密着型の大学であること

**山陽女子短期大学の役割は以下の2機能(中教審:短大の機能として4分野)**

- \* 専門職業人の養成機能  
職業人としての汎用的な能力として必要となる豊かな教養的素養を持つ、専門職人材等の養成機能の充実
- \* 多様な生涯学習機会の提供  
資格取得やキャリアアップを目指す社会人や、再就職を目指す有資格

短期大学あり方検討会の答申

@ 専門職業人材養成機能: 幼稚園教諭、保育士、看護師、栄養士、介護人材  
 @ 地域コミュニティの基盤となる人材養成機能:  
 金融、商業、ビジネススキル、情報、被服、芸術などの専門知識・技能と幅広い教養を併せ持つ地域コミュニティの基盤となる人材の養成機能の充実  
 @ 知識基盤社会に対応した教養的素養を有する人材養成機能  
 短期大学の特色を生かした教養教育と専門教育の提供による知識基盤社会に対応した人材養成機能の充実  
 @ 多様な生涯学習機会の提供: 学び直しプログラムや、地域のニーズに対応した生涯学習プログラムの実施

中期目標・計画; PDCAを意識して計画実行を立てる。

目 標	計 画(2019~2023年)	PDCAが回っているか 確認しながら実施 2021年度実施計画	2020年度実施計画履行状況
<b>A 建学の精神</b> 建学の精神に従った教育目的	1 学生・教職員共に愛優輝の実践 2 教育目的に実際の内容が従っているか確認(以下のB教育・研究等の質の向上参照)	愛優輝は学生だけでは無く教職員の行動規範であるので、互いに敬意を持って接するよう日々心懸ける。	2021年度の計画と異なる部分もあるので番号は必ずしも一致しない
<b>B 教学(教務、学生)関係の推進</b>	短大生調査の実施	短大生調査2021を実施する	
<b>1 教育・研究等の質の向上</b>	大目標の「質の高い教育」を目指してPDCAサイクルが回っているか。 質の高い教育→学力の3要素を基盤として、GPA値・全国レベルの試験成績・資格取得率・就職先の評価等が高い		<b>学力の3要素:</b> 知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性
<b>教務部</b> 質の高い教育につながるカリキュラムの充実と授業科目の再検討(教務部・学科)	1 3ポリシー・カリキュラムツリー及びの学修成果の査定項目の確認(自己点検評価)と見直し等(学生及びステークホルダー、特に高校教員に対して、解りやすいか) 2 アクティブラーニング及びルーブリック評価実施率を高める 3 短大生調査及び授業評価を分析しPDCAを回し、GPA値に関し学科の平均値の向上をめざす。 4 ティーチングポートフォリオの充実	① 3P及びAPIに関して学力の3要素を中心に簡便に書き改める。 ② アクティブラーニングを更に積極的に授業に取り入れる(継続)。主体的に学ぶということで、必ずしもディスカッションやプレゼンテーションに限定するものではない。 ③ ルーブリック評価を再検討する。 ④ 短大生調査2020、授業評価アンケートを分析し、FD/SD研修会で発表し、PDCAをまわす。 ⑤ 学科のGPA値をアップさせる。区分1.00-1.99の割合を減少させ、区分3.00-4.00の割合を増加させる ⑥ ティーチングポートフォリオについては、引き続きホームページの教員覧に教育研究業績等を追記する。	①③実施せず ②実施 ④授業科目の60%がアクティブラーニングを取り入れていた。 ⑤殆ど全学・学科共に2019年度は前年度と変わらなかったが、食物栄養学科は幾分アップした(他学科に近づく)。2019年度自己点検評価報告書に記載。 ⑥実施した。
	5 質の高い資格取得者の養成 6 専門学校や他大学、専門職短期大学との差別化 7 臨床検査技師国家試験、専攻科の診療情報管理士の合格率のアップ	① 臨床検査技師国家試験合格率90%以上を目指し、再度国家試験の分野別内容を検討して改善する。併せて入学試験合格者(入試区分等)についても改善策を検討をする。人間生活学科では難易度の高い資格取得者を増やす。栄養士認定試験のA判定者を増やす。 ② 就職先アンケートで「水準を上回る」のスコアの増加を目指す。PDCAサイクルをしっかりと回していく(具体的にテーマを挙げ、例えばリーダーシップが向上した学生の割合を増加させるにはどうすれば良いか) ③ 卒業生調査の実施 B-2-2)12 ④ 確かな基礎力をつけさせるため、学修支援(個別学修指導や個別の補習)を積極的に実施する。 ⑤ 5月までに4年制大学と専門学校との違いのリストアップ作成し、積極的にアピールする。	① 臨床検査技師国家試験合格率は78%であった。この5年間ににおける入試区分別合格率はAO入試、指定校、一般I期、公募Aでいずれも80%未満であった。診療情報管理士合格率は67%であった。栄養士の実力認定試験の平均値が前年度より僅かではあるがアップした。 ② 個別の評価では前年度と大差なかったが、総合評価では前年より10%低かった。ただ期待した水準も加えると前年度と同じ90%であった。 ③ 短大生調査(2019年卒業生対象)の結果を分析中 ④ 補習対象者についてはB-2-1)-4参照 ⑤ 現在のチラシから見えてこない(4大か短大か迷っている生徒の獲得、専門学校と違いが見えない)。再検討をする。
	8 学びに対するモチベーションをあげる方法を検討する(事例研究) 9 授業の理解度と満足度を向上させる(授業評価・短大生調査)。	① 将来の方向性等について学生と一緒に考え、学ぶモチベーションをあげる方法を学科毎に検討する。(就職指導とも連携) ② 学生の意見を聞きながら環境作りを更に進める(図書館と連携)。 ③ 授業の理解度と満足度を向上させる取組についてFDSD研修会を実施する。(教学IRの意見を取り入れ検討) ④ 学内ネットワーク環境の整備(オンライン講義の円滑化)(臨床棟のWi-Fi環境整備)	①②実施中。学びのモチベーションについては、教養科目に現在のテーマを取り入れるようにした。 ③ オンライン授業のため整えた。再度後期授業が終わり次第アンケートを実施する。 ④ 臨床棟のWi-Fi整備 未実施

<p>質向上のための教育方法の改善: 主体的な学びを促進 (教務部・学科・就職指導部)</p>	<p>10授業内容の信憑性等(旧い知見かどうか)の確認 11教育方法あるいは授業方法等について研修会を実施 12学修成果の査定全般とGPAの関係 13授業評価の方法の再検討とPDCAを視野に入れたコメント作成</p>	<p>①授業内容の信憑性等について、どのような方法で確認しているかをアンケートで実施する。 ②学修成果の査定項目とGPAの関係を分析するために、教務システムのカスタマイズを行う。 ③履修登録時にその学年で履修しなければならない単位が不足している場合に分かるようにカスタマイズする予定。 ④教育方法あるいは授業方法等について研修会を実施する。 ⑤授業のアンケート項目を再検討をする。</p>	<p>①実施せず。 ②授業で「情報リテラシー」に取り入れた。 ③卒業証明書用の成績表にGPA値が記入できるようにカスタマイズしたが、その他はカスタマイズが高額なために見送った。 ④カスタマイズが高額なためにGPA値を教育課程群に分けて集計できないので、その他のアンケートとの関連性を検討しなかった。 ⑤未実施 ⑥未実施</p>
	<p>14学修時間の確保</p>	<p>①3学科とも、資格の見直しから教育課程を整理し、自主学修時間が確保できるような時間割を考える。ただし、アルバイトを入れないような工夫をする。 ②学修行動調査を実施し(短大生調査の利用)、学生指導の一助とする。</p>	<p>①臨床検査学科は見直しをした。人間生活学科と食物栄養学科は見直し困難? ②については短大生調査で実施し、データは各学科に配付した。</p>
	<p>15 授業科目や資格の整理</p>	<p>①動向や実情を鑑みて見直しをがあるかないか引き続き検討する。</p>	<p>①人間生活学科は次年度に向けてコース再編に伴い見直しを行った ②栄養調理コースは見直しを行い、積極的にHPやOC等で紹介を行った。その結果OC参加者や入学予定者が増加した。</p>
<p>研究及び教員の専門性の向上(短期大学あり方検討会等でも教育の質に加えて教員の質向上もあげている。)</p>	<p>16専門性を高める手段としての研究を視野に入れて教育活動を行う 17他機関との研究活動の推進</p>	<p>①紀要等専門誌への投稿・学会への積極的な参加 ②特に国家資格に係わる授業に関しては、研究も行うことが国の指導方針なので数年掛けても共著単著かかわらず1本書くよう努力する。 ③他機関との共同研究を増やす</p>	<p>①本学紀要投稿数は昨年度とほぼ同数で学会発表はやや少なかった。 ②実施中。研究報償費制度の改訂を行って、投稿料の公費負担や論文執筆者への報償制度を充実させた。 ③食物栄養学科で1件、臨床検査学科で4件あった(以下の項目18参照)。</p>
	<p>18地域課題への取り組み</p>	<p>①地域連携センターとも連携しながら取り組む 外とのつながりに関しては、人間生活学科の場合見えてこない。学生の就職先やインターンシップ関係の企業と懇談会などを開催するのはどうか。</p>	<p>食物栄養学科(岡崎): 広島県産水産物を活用したレシピ開発(ひろしま地産地消推進協議会「ひろしま地域食材PR推進事業」、広島県) 臨床検査学科(椋): ①細胞診検査の技術 第6版(安松弘光、椋清美、熊本保健科学大学 南部雅美)の翻訳(英語)②細胞診検査の技術 第6版のラオス語への翻訳(ラオス国立健康科学大学医療技術学部、ラオス国立がんセンター)③子宮頸部腺癌におけるmiRNAの発現に関する研究(広島大学病院 病理診断科)④ラオスにおけるタイ肝吸虫に関する意識調査(安田女子大学看護学部、ラオス国立公衆衛生研究所)</p>
<p>高大連携・大学間連携の推進 (教務部)</p>	<p>19高等部との関わり強化、入学者を15名以上(継続) 20大学間連携の可能性(単位互換制度を除く)(ICTの利用)</p>	<p>①高大接続に関して高等部教員と協議する(継続)。 ②①も踏まえて、高等部での授業の点検評価について検討し、入学者増につなげる。 ③引き続き教育ネットワーク中国に高大連携に係わる授業は提供する(継続)。 ④教育ネットワーク中国の単位互換授業について、毎年後期末に本学学生に案内を配付し、利用を促す(継続)。</p>	<p>①実施中 ②未実施 高等部からの入学予定者は11名である。 ③④未実施</p>
<p>社会人の学び直し推進(教務部・入試広報部)</p>	<p>21学びの状況の把握 22厚労省管轄の教育訓練給付制度についての検討 23キャリアアッププログラムの推進</p>	<p>①社会人学生の集まりを開催する。 ②社会人学生へのアンケート実施 ③社会人向けのチラシを作成する。社会人の入学者を5名以上にする。 ④リカレント教育やキャリアアップ講座の提供(受講者数前年比10%増)。 ③④に関して、広報と協力して効果的な宣伝方法を考える。 ⑤厚労省管轄の教育訓練給付制度についての検討</p>	<p>①③コロナ禍ゆえ未実施 ②作成中 ③社会人入学予定者5名 ④規程等の整備が困難</p>
<p>将来構想(教育分野の再編等) (中長目計委員会・学科)</p>	<p>24定員や学科・コースの再検討</p>	<p>①全学科コースの特徴と他大学や専門学校との差別化を再度確認する。 ②各学科情報を収集して継続して今後について検討する。 ③国内短期大学の状況についての情報提供</p>	<p>①人間生活学科はコース再編で整備。差別化についてはB-1-6-⑤参照。 ②調理コース見直し。再掲1-15②: 栄養調理コースは見直しを行い、積極的にHPやOC等で紹介を行った。その結果OC参加者やAO入試応募者が増加した。 ③学科新設: 三重短大食物栄養、仙台青葉学院短大言語聴覚、大阪国際短大栄養とライフデザイン 専門職短大; 人間総合科学大学専門食短大データビジネス、せとうち観光専門職短大観光振興</p>
<p>(専攻科設置準備委員会)</p>	<p>25専攻科(臨床)の設置の検討</p>	<p>未検討</p>	<p>未検討</p>

図書館の充実 (図書館)	26計画的な環境整備、HPの充実	①AVルームの充実(自動販売機・机等) ②図書館の床(カーペット)の改修 ③看護専門学校からの図書整備 ④貸出し学生増への対策	①バーコードリーダーによる蔵書点検実施 ②図書館管理規定の見直し ③ブラインド整備、図書館2階天井破損ガラス改修 ④AVルーム整備:AV機器等の撤去し憩える場とした(畳導入)。 ⑤図書費からの論文投稿料援助:研究褒賞制度を改訂し、大学の経費から支出することになった。D-2-4 ⑥紀要41号発行 ⑦看護専門学校の図書を引き取った。
施設や機器備品等の整備 (全学)	27必要な設備・機器備品の計画的な整備	①未改修部分の改修の継続(教室のドアや黒板のホワイトボード化等) ②学内ネットワーク環境の整備(オンライン講義の円滑化) ③教室にプロジェクター設置(継続) ④第2CAIと第3CAIの使い方を検討	①ドアノブは未実施、ホワイトボード化実施 ②Wi-Fi利用可能とした。臨床棟は未整備 オンライン授業のため整えた。再度後期授業が終わり次第アンケートを実施する。短大生調査(11月実施)によれば本学のPCやインターネット環境に対して不満を持っている学生が40%いた。 ③未実施箇所あり。 ④計画的に進行中、なお教員・PC教室のPCはWindows10にバージョンアップした。
組織的なこと (大学・教務部)	28教務関係の体制は現状で良いか	①教務体制について再考する(継続) ②事務処理の煩雑さについて、RPA(Robotic Process Automation)の利用を検討する(SD研修会あるいは講習会の開催など)(継続)。	①検討中 ②未実施
教学IR委員会	29教務関係(授業評価、短大瀬調査等)のデータ分析 30 29で得られたデータを基に教務委員会に提言を行う。	①短大生調査、授業評価、GPA関連データ等の分析 ②教務委員会との連携を図り、教務委員会に提言も行う。 ③IR関係の研修会に積極的に参加する	実施中(分析はそれぞれの学科や部署で行っている)
2 1)学生支援 (学生カルテの利用)	1 OC参加から出口まで 教務システムの有効利用	据え置き	据え置き
学修支援 (教務部・学科)	2学生生活に関するアンケート実施	2月に卒業生対象に実施。FDSD研修会にて発表。	例年通り卒業生対象に実施した(2月)。結果の公表は?
(教務部・情報センター)	3ポートフォリオの活用に関して再考	①ポートフォリオを利用しやすいように改善。 ②学生からの意見徴収 ③事例の紹介	オンライン授業開始によりポートフォリオの利用が進んだ。学生からはプリントアウトに費用がかかるとの指摘があった。一方、現在のポートフォリオは時系列で並んでいるので、学生にとっては利用しづらい。その点Teamsは便利なので検討する必要がある。 利活用の事例紹介は未実施
(障がい学生支援委員会・学科)	4補習対象者への学修支援のあり方	①引き続き、学修面の困難が窺われ気になる学生に対して教員側から声をかけるなどして学生が学修面について相談できる状況を作る。	①欠席や課題未提出が多い学生に対して、保護者とも情報交換しながら、教員が声かけや指導を行なう等対応している。今のところ目に見える改善は見られていないが、学生の性格や特性を理解した上で、引き続き取り組んでいきたい。 ②2021年3月に、広島県発達障害者支援センターより講師を招き、FD・SD研修会を実施する予定である。
その他の支援 (学生部・学科)	5奨学金制度	新型コロナウイルス感染拡大の影響が出て来ると考えられるので、引き続き検討する。	本主旨を活かした奨学金制度として特定奨学生枠を創設した。
	6チューター制・担任制		
カウンセリング (カウンセリング運営委員会)	7カウンセラー室の充実	①引き続き、FSやCSなどの授業の機会に、学生にカウンセリング・ルームやカウンセラーの存在を周知し、気さくに来談しやすい環境を作る。 ②教職員との連携も深め、学生支援に心理面から関わられるようにする。学生、教職員向けのメンタルヘルスに関する啓発活動も引き続き行う。 ③必要に応じて保護者とも面談を行い、多方面から学生支援を行えるようにする。	①オリエンテーション時のリーフレット配布や、FSやCSでの授業を通じての周知等を行なったが、今年度は新型コロナウイルス感染症に伴う休校や遠隔授業による登校機会の減少もあり、来談者は例年と比べ減少した。これまで継続的に利用していた学生とはメールでの連絡を行なった。 ②個別の学生についての教職員からの相談に関しては数件あり適宜対応した。4月に新型コロナウイルス感染症を巡るメンタルヘルスに関する文書を、教職員向け、学生向けにそれぞれ作成・配布し、啓発活動を行なった。 ③これまでのところ保護者からの相談はなかったが、引き続き要請があれば応じられるようにする。

休退学対策 (学科・カウンセリング運営委員会)	8休退学者の減少に向けて、5%以下にする(各学科・全学)	①問題が深刻になる前に、学生が自ら相談できたり、教職員が変化に気付き声かけができたような、日頃からの学生-教職員間の信頼関係が重要である。(Aとも関連)遠隔授業が続く状況では、オンラインを活用したコミュニケーションも推進していく。 ②学生ならびに保護者との関係づくり等について、教職員が研鑽を積むためのFDSD研修会を開催する。 ③学生へのフォローを今後とも十分に行う。そのためにもチューター面談(オンライン面談)を少なくとも月に1回は実施する。	①教員は積極的に声掛けを行うことに心懸けるようにした。特に食物栄養学科の休退学者は2018年度7名、2019年度3名、2020年度2名(1名は退学者)と減少した。人間生活学科休学者1名、臨床検査学科休学者9名(いずれも前期授業科目無しのため)。 ②該当するテーマについてのFDSD研修会は未実施となった。
障がい学生支援 (障がい学生支援委員会)	9障がいのある学生の支援	①障がい学生支援の基本的な考え方、学生を主体とした支援のあり方、教育目標に適った合理的配慮のあり方など、全教職員が折あるごとに確認し、理解を深める必要がある。 ②学外から障がい学生支援について経験豊富な講師を招き、FDSD研修会を実施する。また、学外での研修、オンライン研修等の受講と、そこで得られた知見を全教職員にフィードバックすることも推進する。	①教職員も日頃より教育支援を行なっているが、内心負担感や不安、迷い等も感じながらの、手探りでの実践ではある。②とも関連するが、研修等を通じて学生支援にあたっての基本的な知識やノウハウを学ぶ機会を設けたい。 ②2021年3月に、広島県発達障害支援センターより講師を招き、FD・SD研修会を実施した。
ボランティア活動の推進 (ボランティア委員会)	10ボランティア・サークル活動	コロナ禍でのどのようなボランティア活動が出来るか自治体とも相談しながら検討する。	コロナ禍で接触型のボランティア活動はできなくなった。 非接触型のボランティア活動及びボランティアと関係ある課題のレポートを提出することで単位を認定する
施設等の整備 (学生部 事務局)	11学内施設や学生寮の改善	①学生・教職員の要望を踏まえた計画的な履行 ②サンカフェの利用方法を引き続き検討する。 ③施設設備は改装・更新を年次計画で可能な限り早めに行う	①Wi-Fi環境の整備(臨床棟は未整備) ②その都度利用法について業者と検討している。 ③実施中 (図書館についてはB-1-26参照)
卒業生の動向 (学生部・就職指導部・同窓会)	12卒業生調査(本学の教育成果を知り、今後の教育改革につなげる。B-1の質の高い教育)	①短期大学基準協会による卒業生調査に参画する。 ②卒業生調査、短大生調査、企業アンケート(B-2-2)-7等を総合的に分析し、質の高い教育(B-1)につなげるよう検討する。 ③これらの結果を基にFDSD研修会を実施する。	①実施し、集計結果(2019年度生51名)を得た。 ②企業アンケートとの関連性については実施せず。
<b>2)就職支援</b> 就職活動前及び就業前研修の充実	1 職に就いて働くことの意義 「キャリア教育の推進」の強化	①FSやCSで伝える、専門の授業で伝える(継続) ②不安定な学生に対して就業前研修について対策を考える ③内定先で働く前に具体的なイメージを持たせる(就業前研修を個別に実施)	①～③についてはコロナ感染症が直接影響しており、対面の授業や個別の対応が困難な環境にあり十分な対応が出来なかった。
職業意識の醸成(モチベーションを持たせる)	2専門職に就かない学生や就職しない学生への指導	①就職指導部とチューター・保護者・カウンセリングルーム・保健室との情報交換 ②学生の意見を十分聞く、基本は学生の判断に従う ③必要に応じてケース会議を行い、解決に向けて遅滞なく対応する。	実施中
	3CS及びFSの再検討	現状を維持しながら、個別に授業内容の変更を行いながら対応	検討中
計画的な個別指導の充実 全学:有資格者決定率 80%以上、 就職決定率 90%以上	4入学時からの指導体制:見直しと対策 本人・保護者を含めチューター等関係者(部局)との情報共有	①チューターと本人・保護者・就職指導部・保健室で意思疎通を図る。問題を抱えている学生の場合は、プライバシー保護のもと細やかな指導と情報共有が必要(学生自身が不利益を被る)。 ②無理に専門職に就くような指導はしない(早期離職につながる)。	コロナ禍にあつて就職に関してナーバスになっている学生がいるので、今まで以上に気を配りながら、3者あるいは4者で密に連絡を取り合うことが求められている。
	5インターンシップ等就業支援の充実	①地域企業・行政等それぞれの学生にマッチしたインターンシップ先の更なる開拓(オーダーメイド) ②インターンシップから就職に繋げるバックアップ	9月に実施済。ただしインターンシップの申し込みが1名と例年より少なかった。またコロナ禍の為、当初求人頂く予定もあったが就職には繋がらなかった。
	6求人開拓の取り組み	①同窓会・企業との連携・市や県との連携、外部評価委員・中小企業家同友会への依頼 ②インターンシップ先と就職先を関連させる。	実施中
就職活動前及び就業前研修の充実 就職先からの評価を高める	7 企業アンケート Aを10ポイントアップする ※Aは「期待した水準を上回る」 8 コミュニケーション力の強化	マナー向上の対策(継続) ①教職員がマナー向上という意識を持って学生と接する ②マナーが出来ない学生に対して個別研修を行う ③内定者対象の就職前研修指導の実施 ④マナーについての項目「礼儀作法」「服装・身だしなみ」「コミュニケーション力」を全体の50%以上になるよう取り組む。(現況では平均30.4%) ⑤マナーについての項目「コミュニケーション力」の17.1%が「期待した水準を下回る」ため9%以下を目標とする。 ⑥更に評価項目を細分化し現状及び問題点の把握に繋げる	全体的な評価ではAの評価は昨年の90.5%を1%ではあるが、さらに改善され91.5%の評価を得た。特に食物栄養学科では「知識・理解・技能・礼儀作法・服装・身だしなみ・協調性」の項目はすべてA評価で、最大16%の改善結果となった。一方、人間生活学科ではA評価が「知識・理解・技能・礼儀作法」の項目で最大14%下がっており、その結果が連動し退職率が8.1%から22.2%と増加につながった。引き続きマナー向上の対策①～⑥を継続して実施する。

	<p>9ミスマッチの防止</p>	<p>①再掲:無理に専門職に就くような指導はしない(早期離職につながり、本人にとっても好ましくない)。学生との十分なコミュニケーションを取る(項目3)。</p>	<p>実施中</p>
	<p>10 1年以内の離職者を減らす (1年以内を10%以下)</p>	<p>①ミスマッチの防止、学生の将来を見据えた細やかな配慮が必要、その他上記の項目3, 6で記載したこと。 ②離職者についての聞き取り調査を基に学科と就職指導部で更に詳細化したものとする。 ③就業後の個別フォローを強化して課題の把握と解決を本人と共有する。</p>	<p>昨年8.5%と目標値をクリアしていたが、今年度は11.2%と悪化した。原因としては人間生活学科の退職率が22.2%と大幅に悪化したことが原因と考えられる。ただし、6名の内3名はコロナの影響があると判断される為、個々の要因について引き続き分析し対応して行くこととする。</p>
<p>3 学生の受け入れ</p>			
<p>1) 教務部 入学試験制度 (教務部、広報活動は入試広報部)</p>	<p>1 受験科目・資格等の検討 現在の区分の再検討</p>	<p>① 受験科目・資格等の検討 現在の区分の検討(継続)</p>	<p>①実施 具体的には募集要項参照 ②未実施 (現在のところ現行制度を変更する必要無し?)</p>
<p>2) 入試 広報</p> <p>大学の魅力と地域貢献の発信と入学者増を目指す 入試広報:どちらかと言えば短期的な活動で入学者増を目指す 大学広報:大学の存在を示す長期的な活動で広報誌、ホームページ、地域貢献活動等を(広報的視点で見)含む (入試広報・IR委員会・学科)</p>	<p>2 社会人入学者増に向けて 3 機能強化 (学生カルテの利用・教務・就職指導・OCを一元化) 4 OCの効果的な方法を考える。 5 校内あるいは会場ガイダンスについて再考する。</p>	<p>① 社会人対象のチラシを作成し、市役所や市民センターなどに置いたり、その他配布方法を考える。 ② 社会人学生の集いを企画する。 3のシステム利用の機能強化は中止 ③ 入学者動向についての本学教員対象説明会開催(5月) ④ 保護者・受験生から意見を聴く(OCのアンケートを利用) ⑤ 高校教員対象の入試説明会(対面を検討)の再開(6月) ⑥ 教員の高校訪問の再開 ⑦ OCは対面及びWEB、いずれも学生主体で考える。 学生スタッフとして募集する。 ⑧ 毎日がミニOCを実施する。 ⑨ 人間生活及び食物栄養いずれもOC参加者を50%増加させ、入学者増につなげる。3年生だけでは無く1, 2年の参加も検討する。 ⑩ 校内・会場ガイダンスへの積極的な参加</p>	<p>① チラシ作成中 ② コロナ禍のため未実施 ③ ④ 実施:その都度次回のOCに反映している。 ⑤ コロナ禍のため中止、動画配信中。⑥ 実施 ⑦ コロナ禍のため対面OCは3回で9月を除いて3年生中心、WEBOC3回実施した。高3年生の参加者は昨年度比、人間生活学科76%、食物栄養学科97%、臨床検査学科83%であった。 ⑧ 中止 ⑨ 従来入学者があった高校から来なくなった理由は? 当該高校入学者とトラブルがあったかどうか確認(資料:出身高校別年度別入学者) 食物栄養学科では休退学者の出身高校からその後も入学者はあった。</p>
	<p>6 大学全体及び学科コースの特色等を鮮明にし、入学者増を目指す。特に人間生活学科と臨床検査学科はそれぞれ40名、食物栄養学科は50人以上の入学者を目指す。</p>	<p>目標達成のために以下の対策を検討する。 ① 学科コースの特徴のリストアップ、他短大、4大や専門学校との差別化をアピールする(継続)B-1-6。 ② 学科紹介の動画の配信(学生主体) ③ OG懇談会を開催する。卒業生インタビューの動画配信の更新。</p>	<p>① 入学予定者数(3/8現在): 人間生活学科35名(37)、食物栄養学科は45名(41)、臨床検査学科は40名(40)で合計120名(118)となった。(〇内は昨年度。最終的には人間生活学科33名、食物栄養学科44名、臨床検査学科32名であった。 ② 差別化できたか? 早急な取組 B-1-6-⑤参照。 ③ 栄養調理コースは見直しを行い、積極的にHPやOC等で紹介を行った。その結果OC参加者やAO入試応募者が増加した。 ④ 卒業生の動画、学科紹介の動画配信。 ⑤ 各学科積極的にこれほと思うものをHPに積極的にアップ中 ⑥ 大学案内・募集要項・高校生DM等の資料について再検討中</p>
	<p>7 大学のHPの充実・メディア対策</p>	<p>① 学生から写真の公開に関して承諾書を得る(入学時の書類と一緒に同封)。 ② メディアへの露出を多くする(これはと思うものがあれば入試広報へ)。 ③ インスタグラム等SNSで学生生活の一端を随時配信 ④ 学生等からもアイデアを募ったり、研修会等に出席する。</p>	<p>① 業者選定を実施 ② コミュニケーションアワーでは未実施、今年度はその都度承諾を得ることにしている。 ③ 実施中。Lineを使った効果的な配信も実施中。</p>
<p>C 地域貢献</p>	<p>地域と積極的な関わりに向けて(地域連携センター)</p>		
<p>廿日市市との包括的協力協定の推進</p>	<p>1 大学の専門性を活かす 2 人間生活/臨床検査で何が出来るか再検討</p>	<p>① 短大で実施可能な課題があるか。自治体から提案を求められている。積極的に係わって行く。 ② 全学科が取り組めるか。食物栄養学科以外で何か考える(例えば医療関係)</p>	<p>①② 未実施</p>
<p>産学連携の推進</p>	<p>3 地場の産業とのコラボレーション</p>	<p>① 積極的な係わり(継続)、他学科も可能な限り1テーマ考える。</p>	<p>食物栄養学科(岡崎): 広島県産水産物を活用したレシピ開発(ひろしま地産地消推進協議会「ひろしま地域食材PR推進事業」、広島県)</p>
<p>生涯学習の推進</p>	<p>4 生涯学習の再考</p>	<p>高齢者が多数参加されるので、コロナ対策を取りながら対面が可能かどうか状況を踏まえながら検討する。 生涯学習プログラムとして捉え直す(継続)。 ① 新規の聴講者の開拓: 宣伝をしっかりとやる(佐伯区の方々から情報が届いていないという意見があった。) ② 高齢者対象のパソコン教室の開催</p>	<p>コロナ禍のため中止 次年度コロナ感染防止対策を取りながら実施する方向で検討する。</p>
	<p>5 地域への講演活動等</p>	<p>① 自治体等への広報活動を積極的に行う。 ② 県市町村等の各種委員会委員への就任及び講演会活動</p>	<p>① 地域連携センター活動報告書を配付(廿日市市) ② 各委員会はコロナ禍のため実施されず。</p>

学生のボランティア活動への積極的な参加(ボランティア委員会)	6地方自治体、特に廿日市市の包括的連携協力を推進する	市や地区自治会・市民センターとの協議を行い、プログラムの提案やイベント等には積極的な参加を促す。	①廿日市市社会福祉協議会(地域のつどい・サロン)へフェイスシールド贈呈 ②献血推進活動(広島市内献血ルームの他、廿日市方面の献血イベントに参加) ③骨髄バンクドナー登録説明員の資格取得と説明会への参加 ④研修会への参加(廿日市市学生消防団活動、広島県青年赤十字奉仕団活動など) ⑤ボランティア活動について考えをまとめるレポート作成
同窓会との連携強化	7多方面にわたる支援	連携を強化して学生募集につながるようにする(継続)。	広報誌(はなみずき12月発行)に掲載。奨学金の増額があった。奨学金制度の充実

## D 管理運営

学校教育法の改正により2015年度から、教授会のみならず全ての委員会は審議するのみであり、学長が決定するとなる。  
各部各委員会開催後は、学長に毎回議事録を提出する。予算を伴う場合は、理由書(必要ならば資料も)を添えることとする。

1 組織運営	組織の見直し(中長期目標計画委員会)	1危機管理体制について(特に新型コロナウイルス感染防止対策) 2現行は効率的か。規程・規則の整備 3仕事が集まらないように分担できるような組織にする。 4女性管理職を増やす。	①危機管理体制の検討及び組織の見直しを検討する。(継続) ②新型コロナウイルス感染症対策委員会は本学の感染防止対策について適宜指導する。 ③教職員全員が働きやすい環境づくりを考え、実施する。FDSD研修会の開催	2の規程の整備についてはほぼ終了 ①実施 特に4月6日に新型コロナウイルス感染症対策委員会を設置し感染拡大防止対策に努めている。 ②未実施
	各部業務改善(事務局・学長)	3教務システムの利用促進 4事務職員配置換え(システムをある程度取得した段階で) 5全ての部署の仕事ができるようにする 6SD研修会の計画的実施(改革支援事業タイプ1に關係)	①効率化を図るため再検討する(RPAの導入も視野に入れながら)(継続)。 ②SD研修会を行うテーマを募る(既に計画の中に書き込んでいるテーマも含めて) ④教育ネットワーク中国等の研修会に積極的に参加する。 ⑤大項目4と5はしばらく中止	①検討せず ②部分的に実施 ③未実施 ④コロナ禍のため中止
	教職員の年齢構成の是正	7できるだけ規程通りに運用する(継続)	後継者育成等から年齢構成を随時適正化する。できる限り65才定年を実行する(継続)。	実施中
	キャンパスハラスメントが無い環境	8人権意識の向上:学生、教員、職員が上下関係なく互いに相手をリスペクトして、学びやすい、そして働きやすい環境にする。特に上司の立場にある者は注意すべし。	①学生を尊重しつつ対応する。学生に対して一方的に話をしない。(2017年2月FD/SD研修会高田先生のレジュメ参照) ②叱る・怒ると注意を峻別する、日常的に学生と接するときにマナーに意識しながら対応する、学生からの挨拶を無視しない。 ③学生・教員・職員互いに気を付けながら、特に上下関係に注意して接する(威圧的な態度をとらない)。 ④ハラスメントのパンフレットの改訂を行う。	①～③を踏まえたハラスメントについての研修会 実施せず ・全学生対象のハラスメント調査を実施した。その結果をポータルサイトやHPに公開した。 ・ハラスメントが散見された。 (パワハラ・セクハラは線引きは難しいと考えないように！)
	自己点検・評価(自己・点検評価委員会)	9第3クールの新しい評価項目に対処できるように対策を立てる	①2021年度短期大学基準協会より訪問調査を受ける。 ②新しい評価基準にしたがって、6月末までに報告書を書き上げる。	①2月に部評価委員に送付し、書面会議を実施した。 ②中止 ③実施 特記事項:2021年度短期大学基準協会より訪問調査を受けることが決まった。
	学外有識者懇談会	10外部評価委員会の開催	①会議で課題としたい内容の検討(主に自己点検評価報告書の教務関係、その他就職、広報誌やHP等媒体)を事前に依頼する。 ②指摘事項を改善する。	①2月に外部評価委員に送付し、書面会議を実施した。 ②2019年度指摘事項、2件(学生部関係と臨床検査学科)について外部評価委員に回答した。2020年度の自己点検評価報告書に状況を書き込む。
	2 財政基盤	学費等から収入の確保	1学科及び専攻科の定員確保(充足率100%を目指す) 2授業料等の値上げ	①人間生活学科と食物栄養学科の入学者増を図る。 B-1-5、6、B-3-7 ②学費の値上げについては、他大学の動向を見て決める。
特別支援事業の獲得(教務部・IR委員会等)	3採択基準となる実施項目を増やす	短大で出来る項目は限られているが、可能な項目から実施(主にA教学関係、例えば、TPの策定、入試問題、卒業生アンケート、ICT関係等)。	採択されずともタイプ1に応募する理由 文科省の教学に関する考え方、方針などが読み取れるため。	
外部資金の獲得	4科学研究費や共同研究の推進(再掲)	研究褒賞制度を改訂し、これまで以上に研究を奨励する。		
寄付金	5寄付募集停止	税額控除対象法人となるための要件が、年間100件の寄付があり、総額30万円以上となっているため寄付金を募るのは目途が立つまで中止とする。		



非常勤講師の見直し (教務、全学)	6授業科目の見直し(継続)	見直しを図るが、非常勤講師の肩代わりで担当科目が増え、負担増加につながるのでバランスとりながら、引き続き見直し検討する(継続)。	検討中 現在非常勤科目は122科目64名となっている。
教職員の給与体系・手当等見直し (事務局、中長期目標計画委員会)	7年齢構成の適正化と連動させる(継続)	①給与体系の見直しの検討 ②手当の見直し検討	検討せず
コスト削減意識を高める	8出張回数を減らす・消耗品の節約・省エネ・広告等見直し	①原則として学会活動のみに出張費を出す。 ②広告・宣伝等を検証し、要費用対効果も考慮し予算見直しを行う。 ③引き続き消耗品の節約に努める。	実施中
予算(事務局 学長)	9適切な執行と経費削減に向けた努力(上掲:出張回数を減らす・消耗品の節約・省エネ・広告等見直し)	①適切な執行を心懸ける。 ②補正予算を計上しなければならない事態になるかもしれないので、経費削減に務めるよう教職員に周知徹底する。	実施中
<b>3 情報公開</b> 財務状況の公開	1HP等で公開		
出張報告書の公開(学内限定)	2大学に係わる国や帰属団体の情報共有	各部局それぞれ毎年開催されている全国あるいは地区での会議出席の場合、サイボウズ上で報告する(教務や学生支援関係)。	コロナ禍で未開催、延期、オンライン等様々であったが全員への情報共有は実施されず。
大学ポートレートとホームページ	3内容の検討、迅速な更新	①学科に関係するのは学科が更新、・大学全体は入試広報部 ②ポートレートはHP作成委員が定期的に更新をする(少なくとも2-3回は実施)	大学全体は3-4ヶ月1回更新、学科に関しては未実施。 リクルート、ベネッセ等には時折大学ポートレートが取りあげられている。
<b>4 理事会・評議会</b> 短大への理解の促進(学長)	理事あるいは評議員に短大の情報提供	理事会や評議会に、毎回予算案以外の短大に関する情報を提供する	実施中
<b>5 監査</b> 監事による監査	業務並びに財政について監査する*	年に1-2回実施する	3月に実施した。

### 2021年度重点目標

- 1 授業や学習支援に関するアドバイス等の満足度をアップさせる。
- 2 専門学校や他大学との差別化、特に内容を中心に差別化を図る
- 3 各学科共に志願者数及び入学者数の10%以上の増加を目指す